

平成29年度

保育園の自己点検・自己評価

日新保育園

記入方法

* 個人評価ではなく、園としての評価です。

* 4段階評価です。該当する欄に○印を付けて下さい。

園の目標 「清らかなこの目、このひとみをみんなで守り育てよう」

1、健康で純真な子ども

2、友だちづくりのできる子ども

3、思いやりのある子ども

4、いろいろなことに興味と関心をもつ子ども

4. たいへんよい
3. まあまあよい
2. 一部検討を要する
1. 改善を要する

今年度の重点 「自然の中でのびのびと遊び発見をする子ども」

項目	内 容		評価				改善に向けて
			4	3	2	1	
保育課程について	(1)	保育目標の具体化に向け、子どもの実態を踏まえた重点目標を設定している。		○			・全職員の共通理解とPDCA体制をとるために、話し合いの時間の確保と共有のための手段の工夫が必要。
	(2)	保育課程は、前年度の反省を生かしている。		○			
	(3)	保育課程は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っている。		○			
	(4)	P(計画)・D(実施)・C(評価)・A(改善)の体制をとっている。		○			
保育について	(1)	指導計画は、子どもの実態に即して作成している。		○			・新保育所保育指針の理解を深め、子どもの育ちを見取り子どもが主体となって遊べる環境構成の工夫が必要。他の保育士の保育も参考にしていく。
	(2)	保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っている。		○			
	(3)	発達過程を踏まえた1日の流れ(ディリープログラム等)になっている。	○				
	(4)	環境構成の工夫や過程を意識した保育をしている。		○			・全職員が素材や用具について周知し活用していけるようにしていく。 ・反省を改善につなげる意識を高めていく。
	(5)	素材・用具を適切に活用している。		○			
	(6)	P・D・C・Aを意識して保育している。		○			
行事について	(1)	行事の種類や実施回数は適切である。		○			・行事が子どもたちの負担とならないようにする。子どもの自主的、実践的な活動となるよう反省をもとに今後も改善を行っていく。
	(2)	行事のねらいを計画や実施に十分生かしている。	○				
	(3)	子どもの活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしている。		○			
	(4)	保護者の要望や意見、地域性を取り入れている。	○				・普段の保育とのつながりや、行事による子どもの育ちを大切にする。
	(5)	P・D・C・Aサイクルで実施している。	○				
職務	(1)	職務内容が明確で、協働できる体制になっている。		○			・自分の職務に責任を持つとともに、職務にとらわれず協力し合ったり臨機応変に対応したりしていくことも大切。 ・職務につながる研修に参加する。
	(2)	職務の分担、割り当てが適切に行われている。		○			
	(3)	各種会議を適切かつ効率的に進めている。		○			
	(4)	職員相互がそれぞれ全体的な立場を理解し、協力や助言を惜しむ事なく園の運営に関わっている。		○			
連携	(1)	子どもの状況について関係する全職員が周知している。		○			・情報の共有については、状況により会議や回覧等により周知徹底を図る。 ・お互いの保育に関心を持ちアドバイスをし合える関係づくりや研修のグループ分け等の工夫をしていく。
	(2)	職員同士が打ち合わせや研修を行い、お互いの保育に対する理解を深め、援助についての共通理解が図られている。		○			
	(3)	地域等との年間交流計画は保育過程に沿ったものになっている。		○			
	(4)	地域の人達と楽しく触れ合う事ができるような配慮や援助をしている。		○			
組 織	クラス経営	(1)	年齢別・クラス別目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定している。	○			・年間指導計画は期別の見直しをする。 ・異年齢児交流はオープン保育に限らず意識して交流の機会をもつ。
		(2)	年齢別・クラス別目標は、子どもの実態に即して設定している。	○			
		(3)	年齢別・クラス別目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定している。		○		
		(4)	同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っている。		○		
		(5)	共通理解を図り複数の目で保育をしている。		○		
		(6)	評価、資料(諸記録)を集積している。	○			
	特別支援教育	(1)	全職員で情報を共有し、チームで対応している。		○		・特別支援教育は今後も専門機関の指導を受けながら進めていく。 ・園内委員会を設置する。 ・家庭との連携を図るために良い関係づくりをする。
		(2)	個別の指導計画を作成している。	○			
		(3)	家庭や専門機関との連携を図っている。	○			
	健康・安全・防災教育	(1)	健康な生活を送れる為の保健対策をこうじている。	○			・あらゆる場面を想定した不審者対策を行う。 ・門や玄関の施錠については保護者の意識を高めるよう発信していく。
		(2)	避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて適切に実施している。	○			
		(3)	健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭での啓発を行っている。		○		
		(4)	子どもの安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っている。		○		
		(5)	不審者などに対応する周到的配慮を行っている。		○		

項目	内 容		評価				改善に向けて
			4	3	2	1	
食育	(1)	保育園の理念・めざす子どもの姿に基づいた「食育計画」を作成している。		○			・給食担当者と保育士間の共通理解を図り、食育計画の作成は連携して行う。 ・各年齢なりに食の体験活動を意識して取り入れていく。
	(2)	年齢に応じて食事を楽しむ事ができる工夫や配慮がなされている。		○			
	(3)	多様な食の体験活動が行われている。			○		
	(4)	アレルギー対応については、保護者や職員・関係機関と連携をとり適切に行っている。		○			
研究・研修	園内研修	(1) 研究テーマは、保育目標の具現化につながるものである。		○			・職員が子どもの姿をとらえ子どもの育ちを支えるための関わりができるよう研究テーマを設定する。 ・取り組みやすいよう内容を絞る。 ・学びを保育実践につなげていく。
		(2) 園内研修の計画・運営は適切である。		○			
		(3) 研究の成果を日常の保育に生かし、子どもの育ちに反映させている。		○			
	園外研修	(1) 各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っている。	○				
		(2) 各種研究会、研修会、講習会での内容を職員に伝え、共通理解を図っている。	○				
情報		(1) 子どもや保護者に関する個人情報適切に取り扱っている。	○				・個人情報の適切な取り扱いを徹底していく。また、保護者にも協力依頼をする。
		(2) 知り得た情報等の守秘義務を果たしている。	○				
施設・設備		(1) 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っている。	○				・子どもの目線に立った安全点検や遊具用具の整理保管をしていく。
		(2) 遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管している。		○			
		(3) 不審者等に対応する備え(装置や設備など)がある。	○				
経出 理納		(1) 各種会計を適正かつ適切に管理・処理している。(集金等を含む)	○				
開かれた園づくり	幼保・学校間交流・連携	(1) 小学校との連携体制は整備され、機能している。		○			・今後も計画的な交流や連携を図っていく。 ・学びの連続性については研修等により学ぶ機会を持つ。
		(2) ねらいに沿った子ども同士の交流はできている。		○			
		(3) 学びの連続性を保障する指導者間の相互理解・相互研修は計画的に行われている。		○			
		(4) つながりを意識した指導計画が作成、実施されている。		○			
	家庭・地域との連携	(1) 希望者に対し、見学や参観を行っている。	○				・地域との交流については、子どもたちの負担にならないよう計画的に行っていく。
		(2) 保護者を含む人材活用をしている。		○			
		(3) 子どもの興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流している。		○			
		(4) 地域の行事に積極的に参加し、地域文化や生活に触れている。		○			
	子育て支援	(1) 地域に住む子ども同士、あるいは親子が一緒に遊ぶ事が出来るような場の設定を行っている。	○				・月1回園開放日を設けているが、参加者が減ってきている。反省を踏まえて改善し、内容の充実を図っていく。
		(2) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定している。		○			
		(3) 子育て相談を随時行えるような体制になっている。		○			
		(4) 専門機関との連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供している。		○			
	情報の発信	(1) 各種たより・ホームページ等で施設の情報を発信している。	○				・クラスだよりの内容の充実を図る。 ・ホームページのワイワイショットはクラスに偏りがないよう定期的に更新していく。
	学校評価	(1) 地域や保護者の意見を施設運営に反映している。	○				・今後も保護者アンケート等による意見を運営に反映させていく。